

平成28年11月2日

第2回 環境放射能研究所 研究活動懇談会 ～大熊町での研究について～

福島大学環境放射能研究所（IER）では環境中の放射性物質の動態について、避難指示区域などで研究を行っています。なかでも大熊町の協力を得て実施している研究テーマは多く、今回はそれらの研究を中心にお話しさせていただきます。

発表の後には、参加者の皆さまとの対話の時間を予定しております。この懇談会は、大熊町内の環境や生物を対象とした研究報告に対する大熊町民のご意見をお聞かせ頂き、今後の活動に活かしたいと考えて開催するものです。どうぞ皆様のご参加をお待ちしています。

●日時：11月21日（月）午後2時～4時

●場所：大熊町役場 いわき出張所（福島県いわき市好間工業団地1-4-3）

●発表

・和田敏裕 准教授

「大熊町での研究概要および魚類放射能汚染状況について」

・脇山義史 講師

「ため池の水放射能汚染状況について」

・奥田 圭 特任助教

「野生動物の放射能汚染状況および個体数増加について」

【お申し込みは不要】※当日直接会場にお越しください。

発表終了後に参加者との懇談会を行います。

（お問い合わせ先）

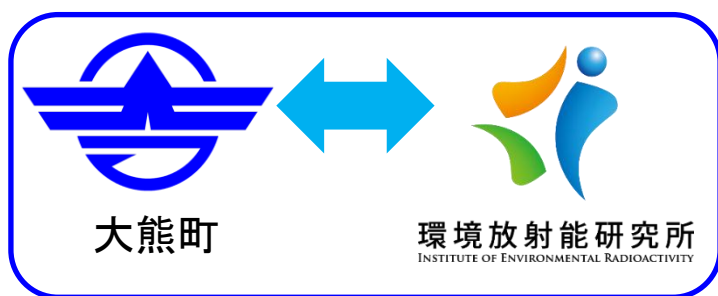
福島大学環境放射能研究所

担当 浅野

電話：024-504-2114

メール：ier@adb.fukushima-u.ac.jp

福島大学環境放射能研究所と大熊町との連携



環境放射能研究所の調査

- 大熊町協力のもと、平成26年4月より実施
- 定期的に結果を報告し、意見交換

- 農業用水や魚類、大熊町庁舎屋上の大気中の放射性セシウム濃度などを報告
- 生活環境の情報は非常に参考になる。
- 原発周辺だけでなく、大川原地区など、居住制限地域の情報は参考になる。
- 断片的な情報が多いなか、まとまった情報を提供してもらえると助かる。

今後の環境放射能研究所の調査にも期待が寄せられている。

【背景】

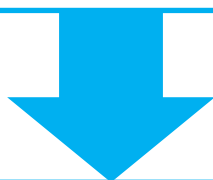
住民の帰還を目指す上で、生活圏の環境放射能汚染に関する情報を提供し、不安を和らげることが重要

【目的】

大熊町をモデルとして、人間の生活基盤である「水」、「大気」、「土」、「生物」の放射性物質モニタリングを体系的に実施し、将来的な住民の帰還や地域社会の再生に資する

【内容】生活圏の環境放射能モニタリング

- (1) 汚染度の異なる農業用貯水池における放射能汚染状況の解明
- (2) 淡水魚類の放射性セシウム汚染状況の把握
- (3) 野生動物の汚染状況および動態の把握
- (4) 大気中放射能濃度と放射能の面的分布

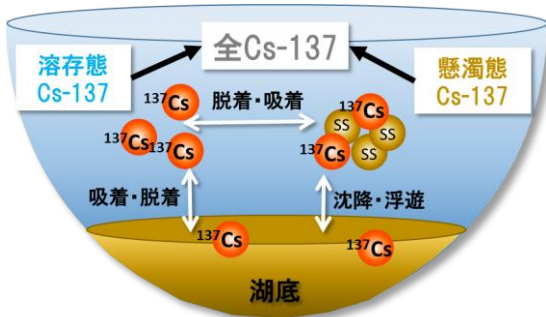


- (5) 研究成果のアウトリーチ：
地域住民・地元自治体を対象にした研究成果報告会の開催など

(1) 汚染度の異なる農業用貯水池における放射能汚染状況の解明



- ^{137}Cs 濃度の長期的な時間変化傾向と変動要因の解明が今後の課題



2015年4月と2015年8月以降は
1ヶ月おきに採水。
懸濁態と溶存態の ^{137}Cs 濃度を測定。

(2) 淡水魚類の放射性セシウム汚染状況の把握



- 原発周辺地域の生活圏の汚染度の指標
- 淡水魚の放射性セシウム汚染メカニズム解明のモデルとしての位置づけ

(3) 野生動物の汚染状況および動態の把握



- セシウム濃度の個体差の原因となる食物連鎖や移動範囲の特定も課題

(4) 大気中放射能濃度と放射能の面的分布



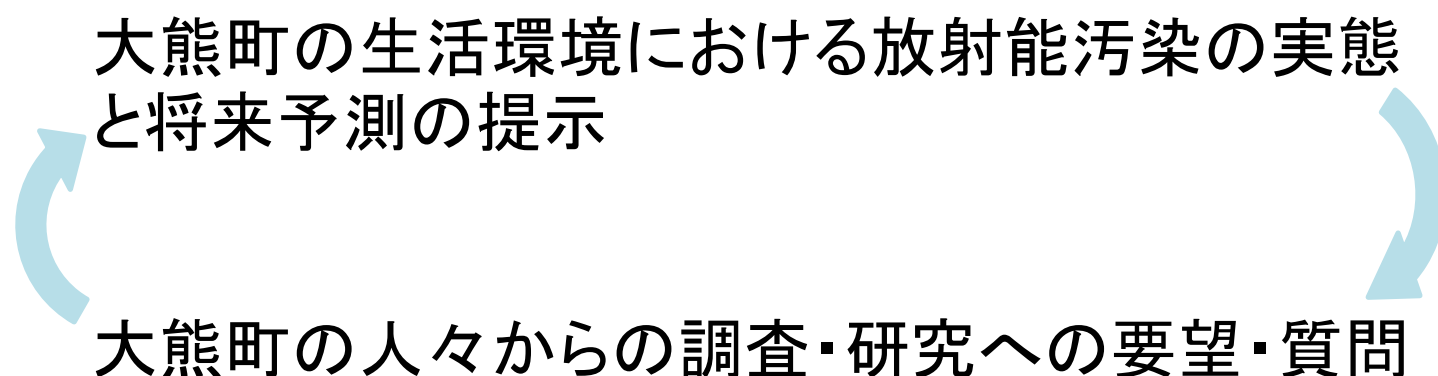
- 気象状況、周辺地表面濃度(線量率)との関係から濃度変動要因の解明が重要



HVエアサンプラの設置状況
(大熊町公民館屋上)

(5) 研究成果のアウトリーチ

【期待される成果】



- 避難している町民の方々の帰町の指針
- 自然と調和した町の復興

さらに、本研究所で行う大熊町での調査・研究の結果や調査体系は、他の避難指示区域への汎用によって、将来的な原発周辺地域の住民の帰還や復興に役立つことが期待される。

